

平成27年度 第1回 学校関係者評価委員会 報告書

1. 日時 : 平成27年9月17日(木) 16時00分～17時00分
2. 場所 : 日本福祉教育専門学校 高田校舎221教室
3. 出席者 : 委員長 肥後 義道 (株式会社東日本福祉経営サービス リーシェガーデン和光)
委員 金川 宗正 (社会福祉法人敬心福祉会池袋敬心苑 施設長)
委員 松山 慎司 (社会福祉法人西東京市社会福祉協議会 専門員)
委員 小内 仁子 (東京都言語聴覚士会 学術局部員)
委員 渡辺 祐介 (公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会)
委員 山田 幸一 (日本福祉教育専門学校 副校長)
事務局 小杉 泰輔 (事務部長)
事務局 川口 朝子 (教務課)
事務局 積田 修真 (教務課)
- 書面参加: 委員 渡邊 大樹 (社会医療法人社団正志会南町田病院 専門職員)

4. 議事

1) 委員からの意見に対する回答

委員より提出された事前確認シートの質問・意見・確認事項等に対し、学校からの回答を配布した。さらに、以下の4点を抜粋し、口頭で説明を行った。(積田)

① 平成26年度の最終的な状況(合格率、就職率、退学率等)平成27年度の対象学科の入学人数の状況(平成26年度との比較)について、委員会当日に教えていただきたい。

【学校回答】

文部科学省視察時の資料を配布し、資格取得状況、就職状況、退学状況、在籍状況について、説明を行った。

② 達成計画・取組方法のⅢ. 各教員の「成果物の作成と発表する」機会について、現段階で具体的な案があれば確認したい。

- i. 教職員の「成果物の作成と発表会」・・・学校内・外
- ii. 生徒等は 閲覧できるようになっているか。
- iii. 「各教員の成果物の作成」は具体的にどのような内容か。

【学校回答】

学内…研究紀要への投稿。教授法研究会にて研究内容を発表。

学外…敬心学術研究会にて発表。教員が所属している学会において発表を行っている。

生徒の閲覧については、研究紀要は本校のHPにも掲載されているため誰でも閲覧可能である。

また、敬心学術研究会も誰でも参加可能なため生徒も教員の研究発表を聞くことができる。

③ キャリア教育を図る上で、「オープン科目」は重要だと考える。今後も継続し充実させていただきたい。学生が自分の学習到達度を確認し、就職後の“近未来の自分”をイメージできる場として、多くの学生の参加と内容の充実を期待する。

【学校回答】

今年度のオープン科目は5つ。就職後のイメージを抱く科目として「就職キャリア支援セミナー」を開講し、卒業生を講師としてお招きした。

④ 地元新宿区や豊島区との地域交流、また地域貢献については取り組んでいるか？

【学校回答】

地域の防災連携、地域に根ざした認知症カフェの開設、文化祭やボランティアでの交流を行っている。

2) 意見交換

委員より提出された事前確認シートの以下の点について、意見交換を行った。(小杉)

① 現場が求めている人材とのずれ。

- ・現場が求めている人材とは？そのために必要な教育とは？(小杉) 技術面、知識面に加え、文章能力も学校で勉強してきて欲しい。(金川) 実践力、実践しようとする気持を持てる人を育てて欲しい。(松山) 技術面だけでなく、人対人の伝える力の専門性、上司に従う組織性が必要。社会性＝モラルは最低限のことである。(肥後) 文章能力は大事。また、プライバシーに踏み込む仕事なので、謙虚さ、人間性、社会性が必要である。(小内)
- ・介護福祉士に関しては、学校を卒業して働く人と、国家試験を受験して資格を取得する人の違いを考えてほしい、という意見がよく聞かれる。(渡辺) 養成校ルートと実務者ルートでは、現場でどのような違いがあるか？(小杉) 実務者の方が即戦力にはなるが、人を育てるという立場なので、目をつぶる部分もある。(金川) 養成校出身のメリットはどこに見出せばよいか？(小杉) 個人差がある。謙虚さや学ぶ姿勢をもってほしい。(肥後) 長いスパンで考えると、最初は出来なくても将来性のある人もいる。(小内) スタートラインの差はあるが、本人と周りの環境次第。(肥後) 養成校卒業時点で資格を持っているのはひとつの魅力である。(松山)
- ・学生数に対し、莫大な求人数がある。現場の欲しい人材を、養成校は育成しなければならない。社会人になると求められる、コミュニケーション能力や謙虚さ等を、学校ではどのように学ばせるとよいか？(小杉) いろいろな人と話すことが大事で、演習・ディスカッションがトレーニングになる。(肥後) 他職種との交わりが学校生活ではなかった。(小内)
- ・教員は話すだけ、学生は聞くだけ、という形式ではなく、相互にコミュニケーションをとるといい。(肥後) 学力低下の対策としても、アクティブラーニングを取り入れる動きがある。学生からは国家試験対策をしてほしいという意見もあるのでなかなか難しいが、実践できる人材育成をしていきたい。(山田) グループワークにより、話す力・聞く力が養われる。(肥後)
- ・教育現場も変わることが求められているが、学生がついてきていない感もあり、試行錯誤している状態である。(小杉)
- ・会話のトレーニングにより、言葉の裏を読む能力や、意図をくみ取る能力にもつながる。(松山)
- ・演習の際、グループ内でもコミュニケーション能力や人間関係形成力の差があり、トラブルになることもある。(山田) まずは2人から始め、徐々に人数を増やすというステップをふむといい。(肥後)
- ・読解力、文章力を向上させるために行ったほうが良い取り組みはあるか？(小杉) 講義録の作成、添削され修正、というのは学生時代かなり取り組んだ。(小内)
- ・現在、パソコンを扱う授業は言語聴覚療学科とソーシャル・ケア学科のみ実施している。パソコンを扱う能力のない人は、現場ではどうしているか？(小杉) わかる人に聞く。(金川) スマートフォンを持っている人が多いので、基本操作は大丈夫なのではないか。(肥後) タッチパネルではなく、キーボードを打つ能力が必要。(松山) 学校で自主的にトレーニングできる環境があるといい。(肥後)
- ・論文抄読も何度も行い力が付いた。(小内)

・文字を削ってまとめる能力というのが大切。(松山)

② 専門学校なので、どうしても専門技術的な部分に視点が向いてしまいがちであるが「人間性」「社会性」「組織性」も専門学校での大事な人材育成が将来学校に戻ってくるのではと思う。

・「学校に戻ってくる」とはどういう意味か？(小杉) 卒業した人が学校で話をする、それを聞いた学生が職業人として旅立つ、というようなモデルが理想である。(肥後)

・現場が求める「人間性」「社会性」「組織性」とは？(小杉) 1対1でサービスを提供する仕事なので、道德教育が求められる。プロとしての自覚、謙虚さが大事である。(肥後) 今年度より「介護の応用」(全15コマ)という科目を作り、その中で倫理観を養う授業を行っている。開講時期は2年次。(積田) 1年次と2年次では、教わって感じるものが違って来るかもしれない。何度か実施できるといい。(肥後)

・ルールを守れる等、普通のことができないと、職場でうまくいなくなる。(渡辺)

・学校生活も仕事に関しても、自己管理能力が必要だと感じる。(小内)

・人間性は、倫理に関する危機感を持って行動しているか。社会性・組織性は、業務として組織の中で動いているかが大事である。(松山)

・一番大事なのは、自分で考えるということ。(金川)

③ 学校理念を学校内に浸透させる機会をもっと具体的に出した方がいい。

・職場の理念や目標を、職員へどのように浸透させているか？(小杉) 人事考課プラス事後の自己評価を行っている。学校では工夫が必要である。(金川) アクションプラン、努力目標を作成し、事務評価を行っている。(松山) 唱和、輪読、掲示させる。(肥後) 会議に参加することが考え方を伝える機会になっている。(渡辺)

5. おわりに (小杉)

委員の意見を基に、今後も学校運営に対して改善を図っていきたい。今年度第2回の委員会は、来年2月を予定している。

以上